

4 第3学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
1 学期初め頃 (算数のオリエンテーションの時)	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を伝える。 前学年での算数チャレンジを児童と教師で共有する。
1 学期の中頃	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに算数チャレンジに取り組みさせる。 宿題として算数チャレンジに取り組みさせる。
1 学期の終わり頃	<ul style="list-style-type: none"> 各自の算数チャレンジを交流する時間を設ける。
2 学期の初め頃	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を再確認する。
2 学期の中頃	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジを前提とした授業展開を図る。4 5分の中で児童が表現活動に取り組む時間を十分に確保する。 習熟(授業後半)の時間に学習活動を選択できるようにする。「計算ドリル、タブレットドリル、ミニ先生、オリジナル問題作り、自主学習(けてぶれ)、動画視聴など」
1、2 学期を通して	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジに取り組んでいる児童の教科書やノートを紹介し、算数チャレンジの価値を共有する。 お便りに児童の取り組みを掲載し、家庭との共通理解を図る。

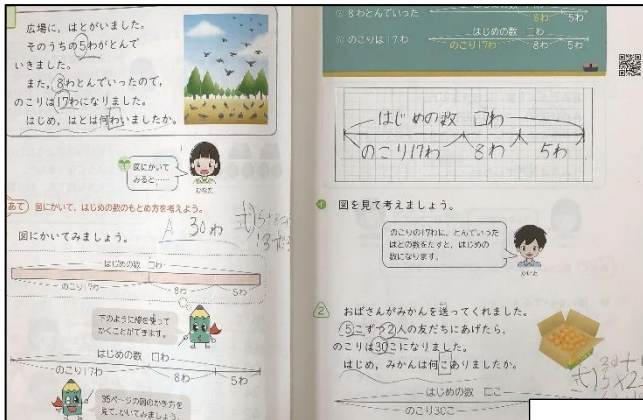
(2) 算数チャレンジ・数学的表現活動の工夫に取り組んだ成果(◎)と今後の課題(●)

- ◎児童が教科書の内容を読んだり、実際に問題を解いたりするなど、見通しを持ち学習することができた。そのため、短時間で一斉指導を行い、個別指導(習熟)に時間をかけることができた。
- ◎習熟の時間に「計算ドリル、オリジナル問題作り、タブレットドリル、タブレットで解説動画の視聴、ミニ先生」など、学習活動を自己選択・自己決定する機会を設定することができた。
- ◎学級内の算数チャレンジを共有することで、「友だちの算数チャレンジを真似する」「友だちと競い合いながら取り組む」姿が見られた。友だちのよさや頑張りを受け止めたり、良い意味での競争意識を持ったりすることが児童の学習に対する姿勢に影響を与えていた。
- ◎内容を押さえたうえで学習に臨むので、課題に対して自信をもって自分の考えを表現する児童が増えてきた。それにより、立式だけでなく言葉での説明や、図で表現することにも挑戦することができるようになった。また、自力解決を終えた後は、友だちと交流することにも意欲的に取り組むなど、充実した表現活動が展開されるようになった。
- 算数チャレンジを単元や学習内容などに合わせて、教師の意図により実施の有無を決めていた。そのため、習慣化には至らなかったと考える。2学期以降の段階では、児童の実態に合わせて算数チャレンジの有無を児童に設定させたり、単元の初めに児童と算数チャレンジをすべき内容を話し合ったりすることにも取り組んでみたいと考えた。そうすることで、「明日の内容は難しそうだから、実際に問題を解くところまでやってみよう」「○○さんは、算数チャレンジをしていたから、ノートがびっしりで発言の回数もすごい」など、個人の実態に応じた目的を持たせ、算数チャレンジに取り組むよさを児童が体感できるのではないかと考える。※先生から言われたから取り組む→自分にとって効果があるから取り組む
- 勢いがある分、単位の書き忘れや、簡単な計算ミスなど丁寧さに課題が現れている。
- 取り組み状況に個人差があることや、取り組み状況の底上げが難しい。

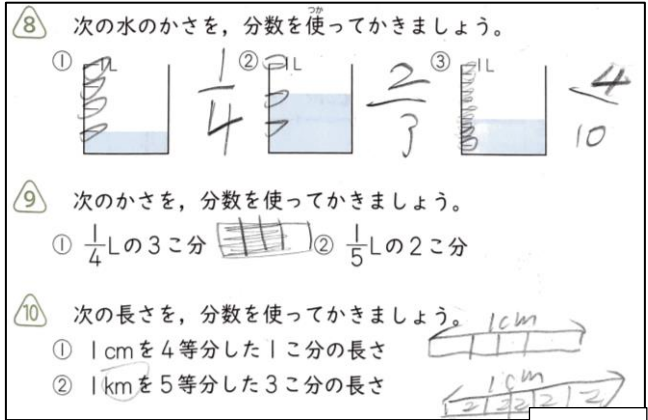
(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【算数チャレンジをした教科書】

分かっていること、聞かれていること、単位など、大切なところに線を引いて情報を整理することができている。また、分数の学習では、1の何等分になっているかを正しく読み取るために問題に印を入れる姿も見られた。学習内容が理解できている児童については、同じ問題をより速く正確に解くことや、友だちに教えたり発表したりする活動を通して知識を積極的に活用することを促している。(資料1・2)



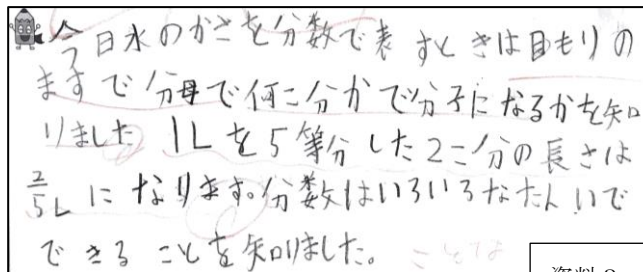
資料1



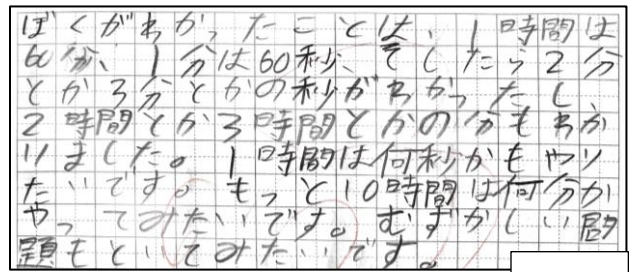
資料2

【ふり返りを書いた算数ノート】

「分母と分子の数をどう判断するか」「学習したことを使った分数の説明」など、学習内容を自分の言葉で表現することができている。また、「1時間=60分」と、時間の単位換算を学習したことで、「2時間、3時間ではどう考えるのか」「より大きな数ではどうなるのか」と統合・発展的に考えを広げ、ふり返りに表現する児童の姿も見られた。(資料3・4)



資料3



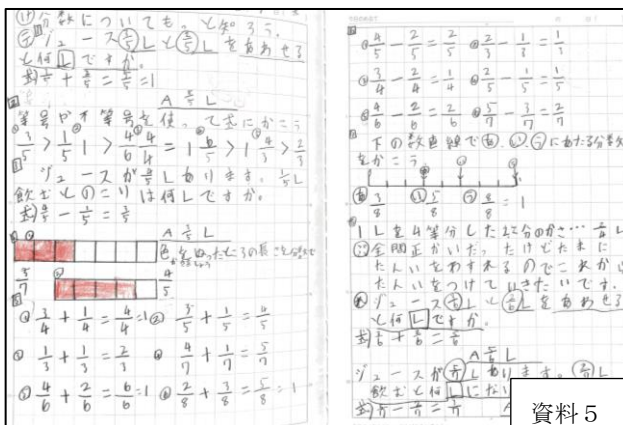
資料4

【授業の復習をした自学ノート】

理解の定着を図るために、家庭学習で授業と同じ課題に取り組む姿が見られた。(資料5)

【授業の様子】

全体交流では、適切な表現を練り合い、繰り返し説明をすることで知識の定着を図っている。(資料6)



資料5



資料6